

第3話

ロマンチック・サイエンス(6)
具体性の科学へ

●8月中旬、ギリシアへ旅をした。

ギリシアは医学の父ヒポクラテスの生誕の地である。ロマンチック・サイエンスを提唱するO.サックスは、「彼の偉大さは病気をはじめて時間軸の中で物語として見たこと」と語る。その伝統は19世紀まで引き継がれ、神経学者や精神科医にとりごく普通のことだった病気を物語り叙述する力が、分析的・還元的手法の確立の中、20世紀には色褪せた。それは、医学界のみならず科学界全般や近代社会の合理主義精神の下、「抽象性」に偏りがちな人心全般に言え、人間が本来備えていたはずの「心の質」の復権のためには、「具体性」についての研究「具体性の科学」が必要であると語る。

●だがこの「具体性」がなかなか曲者で、曖昧で解釈が難しいとも語る。

「自閉症」という病は、電源が切れたTV電話のように「魔法の鏡(=心)」が機能せず、他人が鏡に映らないため実質的に心を持たない病である。この時、自閉症患者にとり現実の具体的なものごとはどう感じられるだろうか？橋の欄干に石ころを置き、飽きずに見つめる患者を描いた漫画があった。石ころは真っ暗なTV電話箱の中で生きる彼にとり、石に集約された世界を実感できる唯一の具体性である。もし石が無くなれば世界が消失し、彼はパニックに陥る。「自閉症」は一種の「具体性の病」とも呼べる。だが一方、「具体性の病」

と呼ばば、大なり小なり何かにこだわる日常的感情の特質を言い表しもする。最近、自閉症やうつ等を特殊な領域に隔離せず、日常的領域で語る視点が増えたのは示唆的である。

●例えば、阿多義明氏は、「自閉症は《企画力》の障害」と述べる。

「企画力は、思考や動作を自分で計画する能力だが、身体企画力・言語企画力・学習企画力等、さまざまなものがある」と語る。「企画」という日常用語で説明することで、病を健常者の延長線上に置き直した。例えて言えば、企画力は知らない街で目的地までの「道」を推測する行為に似ている。「道」は神経回路を象徴している。道の真ん中に石が立ちふさがるとそこで止まってしまいが、止まる当人の立場で言えば自分のこだわりなのである。だが石が巨大になれば、道の見通しも他人の姿も見えず、当人自身、道があることさえ気付かない事態となる。

●「道」といえば他人の心的状態を推測する「心の理論」という研究がある。

代表的な課題に「サリー・アン課題」がある。サリーとアンの二人の女の子がお人形遊びに興じている。サリーは鶴、アンは亀の箱を持つ。サリーはお母さんと一緒におつかいに行く時間になり自分の鶴の箱にお人形を入れて帰った。その直後、アンはお人形を鶴の箱から自分の亀の箱に移し替えた。次の日、サリーが遊びに来た。「さて、サリーは鶴と亀どちらの箱を開けるでしょうか？」この問いに対して「鶴の箱」と答えたら、サリーの知識を理解したとされ、他者の心的状態を推

測する「心の理論」をクリアしたとされる。だが、「亀の箱」と答えたら「心の理論」は成立しない。4歳児までは非成立であることが多いが、その後正しく答えられるようになる。ところが自閉症患者においては4歳児以降もしばしば非成立となる。そこから、自閉症とは他者が存在するコンテキスト(社会的文脈)が理解困難な病と見なされる。いわば共感する術(すべ)を見失う病でもあるが、「心の理論」の物質的基盤も「ミラーニューロン」と見なされている。詳細は『遺伝』2005年11月号が参考になる。21世紀の科学ロマンチック・サイエンスは、社会内の「道」に存在する石のあり様を考え、目的地までの見通しを立て、「持続可能な社会環境」を設計するための「共感の科学」とも言えるだろう。(完)

(参考引用文献)

- 1)「妻を帽子とまちがえた男」(O.サックス 著 晶文社 1992年)
- 2)「自閉症と企画力」(阿多義明著 「自閉症の治し方」41-64P 平成12年)
- 3)「脳単」(河合良訓監修・原島広至著 NTS 2005年)
- 4)「心の理論とミラーニューロン」(山崎由美子著「遺伝」(2005年11月号82-86P) 裳華房)



[謝意] この号をもちまして「電子心母」連載を終わります。時々戴きました読者の方々のご意見など、長期にわたりお付き合いを賜りまして有難うございました。次号以降、新たな展開を見せる当社の新規事業「科学コミュニケーション」関連の連載を予定しております。2007年9月 吉田隆(NTS代表取締役)



●編集後記

今年の夏、日本の「機械遺産」が日本機械学会より発表されました。東海道新幹線0系電動客車やバクトン万能試験機など、何となく知っているモノから全く聞いたことのないモノまで全25アイテムがずらり。そんな中、先日某フリーペーパーに、今後機械遺産に登録されると思う(願う?)国産の機械を掲載する記事がありました。注目の第1位は任天堂のファミリーコンピュータ。他にもAIBOやTOTOウォシュレットなど思わず頷くアイテムばかり。遺産と呼ぶにはまだまだ早く今でも現役の彼等ですが、ファミコンが「遺産」となる日の技術大国日本はどうなっているのだろうか?何だかちょっと楽しみです。(長)

●編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

〒113-0034 東京都文京区湯島2-16-16 (株)エヌ・ティー・エス「NTSニュース」係
FAX: 03-3814-9152 E-mail: eigyo@nts-book.co.jp

NTSニュース

2007年10月号(通巻104号)
2007年10月5日発行